

## 島根県森林審議会（平成30年度第2回）議事要旨

■日時 平成31年3月19日（火）13:30～15:20

■場所 島根県職員会館 多目的ホール

■出席者

【委員】伊藤委員（会長）、広江委員、立石委員、吉川委員、浦田委員、塩見委員、田中委員、田代委員、樋口委員、佐々木委員

【事務局】松浦農林水産部長、桑本農林水産部次長、前島林業課長、山内森林整備課長、日下木材振興室長、松浦調整監、中尾農林水産総務課管理監、外関係職員

■審議会の概要

1. 開 会

2. 農林水産部長あいさつ 松浦農林水産部長

3. 会長あいさつ 伊藤会長

4. 議 事

(1) 「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画」第3期戦略プラン実施状況 資料1  
(説明：農林水産総務課 大國企画幹)  
・平成30年度の森林・林業戦略の取組概要（実績見込）を説明  
(質問無し)

(2) 「新たな農林水産業・農山漁村活性化計画」第3期戦略プランの見直しについて

①パイロットプロジェクトについて 資料2  
(説明：農林水産総務課 大國企画幹)

・平成32年度から次期計画に向けて、部を挙げて重点的に取り組む必要のあるテーマをパイロットプロジェクトとして実施し、林業分野は4本あることを説明

②原木生産・再造林のコスト低減プロジェクト 資料3  
(説明：山内森林整備課長)

・原木生産と再造林の徹底した低コスト化を図り、林業経営の収益力を向上させ、森林所有者への利益還元を図ることを説明

③製材力の強化プロジェクト  
(説明：日下木材振興室長)

・製材工場が収益力をあげて、その利益を森林所有者に還元できる構造を、製材工場の製材力を強くすることからつなげることを説明

④林業事業体の体質強化と林業就業者の増員プロジェクト  
(説明：前島林業課長)

・林業の成長産業化、森林保全を進めていく上で、林業就業者がきちんと技術力を活かして、定着してもらうための施策展開を説明

⑤新たな森林管理システムの推進プロジェクト  
(説明：前島林業課長)

・新たな森林管理システムを活用して、凍結状態にある森林資源を循環型林業の枠組みに取り組み、循環の規模を拡大するエンジンの一つとして機能させることを説明

〈主な質疑要旨〉

Q1. コウヨウザンが合板や建築用材で使用できる研究をしているのか。また、近年のコンテナ苗の生産状況は

A1. 広島県で研究が行われており、用途としては合板及び建築材。スギよりも強度が強く、ヒノキに近い

コンテナ苗の生産は平成26年から始まり、現在生産者は12名。昨年は13万本を生産し、次年度は28万本、5年後には50万本を超える生産の予定

Q2. 海外を含む県内外への出荷を拡大とあるが、具体的な計画や動きがあるか

A2. 平成23年度末、製品を県外へしっかり売り出すことを目的に「木材製品出荷しまね事業体連合」を、県内の製材所を中心に組織化。現在26社で構成。東京や大阪などでの商談会や営業活動を行い、県外出荷量も増加傾向

Q3. 県内の高校生に、農林大学校林業科へ進学してもらう取り組み状況は

A 3. (高等) 学校訪問を実施。次年度からは、農林高校の校長会への働きかけを行う。  
また、益田地域では、農林大学校林業科のサテライトキャンパスを継続して実施。  
県の地域事務所が一緒になって取組を展開

(3) 平成31年度主要事業について

資料4

- 新たな森林管理システム推進事業【新規】
- 意欲と能力のある林業経営者育成・就業者確保総合対策事業
- 林業・木材産業成長産業化対策事業
- 全国植樹祭開催準備費
- 水と緑の森づくり税・事業について
  - ・林業課 永瀬 GL、和田 GL 及び日下室長からそれぞれ説明

5. 閉 会

6. 農林水産部次長あいさつ 桑本農林水産部次長